

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学 校 経 営 中 期 取 組 目 標	
<p>○豊かなかかわり合いを大切に、一人ひとりが認められ磨かれる学校にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的にしっかり学習に取り組み、得意分野を伸ばします。 ・かかわり合いながら自己の良さや他者の良さに気がつき、認め合い、多様性の中で高め合うようにします。 ・居心地の良い集団の中で、思いやりや自己有用感が持てるようにします。 ・保護者地域との連携を深め、学校・家庭・地域協働教育を進めます。 	

(2) 「豊かな心の育成」に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取 組 目 標	具 体 的 取 組
豊かな心		かかわり合いがステップアップしていく異学年交流活動の継続推進に取り組む。幼・保・中学校・地域との連携を図り、児童が自らの成長を感じ自己有用感を高める活動に取り組む。道徳教育の充実に努め、自他を大切にする気持ちを高める指導を継続する。	<p>①全学年が自己有用感を得られる年間を通じた縦割り活動や特別活動の充実。</p> <p>②教育活動の中で児童一人一人のよさやがんばりを認め合う場面を増やし、親和的な集団の育成を図る。</p> <p>③ルールやきまりを守ることの指導と相手を意識した挨拶運動の推進。</p> <p>④音楽会や鑑賞教室など、芸術文化を体験する場の設定をする。</p>
担当	児童支援部		

2 児童の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

あいさつをする子が少ない現状がある。学校全体として「あいさつ運動」にも取り組み、あいさつを促しているが、地域の方や来校者に進んであいさつするまでには至っていない。規範意識についての課題も挙げられる。学校のきまりに対して自分本位な考えで臨んだり、守れたり守れなかったりすることに考えが及ばなかったりする姿が見られる。学年が上がるにつれ、規範意識が希薄になっている面もある。そこで道徳の時間において、児童が自分を深く見つめることで自己の課題を確認しそれを伸ばしたり克服したりしようとするのが大切であるといえる。

3 「豊かな心の育成」に関する具体的取組

○ 自己有用感を得られる親和的な集団作り

- ・縦割り活動や特別活動を充実させることで、子ども同士の関係を深め、進んでリーダーシップをとったり、メンバーシップをもって協力したりしながら、一人ひとりの自己有用感を育てていく。
- ・規範意識やあいさつ運動の推進を通して、ルールやきまりを守ることの指導や、あいさつ運動の取組を行う。

○組織的な児童理解・指導の取組

- ・いじめの未然防止にむけて、児童一人ひとりまたは保護者と、丁寧にかかわりながら、職員全体で把握し、組織で対応していく。
- ・児童が安心して過ごせるよう、「榎スタンダード」（共通ルール）を示し、児童、職員が同じ認識で学校生活を送れるようにする。